➡ 知ってます？市の森林皆伐で市民の財産が失っていること。

白旗山都市環境林ニュース

2025年1月24日(金)　NO.10　発行:札幌の自然を守る会代表梶田清尚　HP:https://midori.kei1.org

札幌市自ら市民財産の森林破壊

秋元市長の森林政策は間違っている

札幌市が自ら森林破壊を進めています。札幌市白旗山都市環境林のことです。皆伐による方法で同市の唯一のまとまった森林を伐採しているのです。今号では、この皆伐がいかに問題であり、後世に悔いをもたらすことになるのか検証します。また、ここで多くの指摘をしますが、はっきり断定できるのは、秋元札幌市長は間違った森林行政をやっている事実(写真)です。まだどうにか間に合うので直ちに森林の皆伐を中止することです。いまなら市民の貴重な財産が維持できます、春になり伐採を始めれば必ずその間違いを市長だけでなく、多くの市民も後生の市民に対して詫びることになるでしょう。

環境に真逆の行動、間違った森林行政

森林皆伐(クリアカット)は、特定の地域で樹木をすべて伐採する方法で、短期間で多量の木材を得る手段として利用されます。しかし、この方法はさまざまな深刻な問題を引き起こします。その森林皆伐がもたらす主な問題を挙げ、それぞれを説明します。

◆生態系の破壊…森林は多様な動植物の生息地です。皆伐により生物の住処が失われ、生態系のバランスが崩れるます。絶滅危惧種がさらに危険な状況に追い込まれます。

◆土壌の劣化…樹木がなくなることで土壌の保水力が低下し、雨水が直接地表を流れるため、表土の流出や侵食が進行します。土壌が劣化するとその後の利用が難しくなるだけでなく、土砂崩れや洪水のリスクも高まります。

◆二酸化炭素(CO2)の大量放出…皆伐が問題なのは林木や土壌に大量に閉じ込めている炭素を皆伐によって大量に二酸化炭素として放出してしまうことです。それを政府・林野庁は再造林した林木の吸収作用にばかり目を向けさせ、放出を覆い隠そうとしているわけです。

2024.8.24白旗山都市環境林

結局こうすれば「パリ協定※」での報告に吸収量だけ計上し、皆伐による排出は他の産業等からの大量の排出に知らん顔して潜り込ませようとするたくらみだからです。

※パリ協定とは、気候変動対策の国際的な枠組みのこと。

◆気候変動への影響…森林の消失は地域の気候パターンに影響を与えます。世界的な問題となっている熱帯雨林の皆伐は地球規模の気候変動を加速させる要因となっています。

森林破壊で動植物が消滅

◆行政の短期的利益と長期的損失の創造欠如…森林皆伐は一時的に木材産業にわずかな利益をもたらしますが、持続可能性を欠いており、森林資源の枯渇を招きます。長期的には市民財産の喪失や、市民散策の都市環境林の破壊に伴うコスト（多様な動植物の絶滅、洪水対策や土壌改良など）が増大します。

◆雇用機会の減少…森林資源の枯渇は、森林管理などに従事する労働者の雇用機会を奪う可能性があります。

◆地域社会や自然探勝への影響…森林は散策をはじめ自然観察、地域のスポーツ、文化や精神的価値と密接に結びついていることが多く、皆伐によりこれまでの自然探勝や文化的資産が失われます。

札幌市のゼロカーボンシティー宣言と白旗山都市環境林の皆伐事業の問題点

札幌市は、2050年までに市内の温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目指し、2020年2月に「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。この目標に向け、2021年3月には「札幌市気候変動対策行動計画」を策定し、2030年までに2016年比で55%の排出削減を目指すなど、具体的な取り組みを進めています。しかし森林担当現場では、市民の財産を損なう大きな間違いのまま、また秋元市長もその事実をしってか知らずか自ら決めた宣言を検証することなく実行しています。それが問題なのです。

環境破壊となる皆伐事業

札幌市内の白旗山都市環境林における皆伐事業がいま問題視されています。白旗山は市民の憩いの場として親しまれてきましたが、札幌市が行った皆伐により、森林の大部分が失われています。この伐採に対して、市民団体やメディアからは環境破壊や生態系への影響を懸念する声が上がっています。

環境調査せず無謀な皆伐

特に、白旗山には天然記念物であるクマゲラ（絶滅危惧Ⅱ類）やエゾライチョウ（北海道準絶滅危惧種）などが生息しており、適切な環境調査を行わずに生息地を皆伐したことは法令違反の可能性が指摘されています。

ゼロカーボンシティと矛盾

このような状況は、札幌市が掲げるゼロカーボンシティの目標と矛盾しています。森林は二酸化炭素の吸収源として重要な役割を果たしており、皆伐による森林面積の減少は、温室効果ガス削減の取り組みに逆行する可能性があります。

市は森林計画を厳守せよ

札幌市の森林整備計画では、伐採を行う際の留意点や市民参加による森林整備の重要性が指摘されていますが、今回の事例ではこれらの点が十分に考慮されないまま進めています。ゼロカーボンシティの実現に向けては、森林を皆伐するのではなく「森林の適切な管理と保全」が不可欠なのです。市民や真っ当な専門家の意見を取り入れ、持続可能な森林管理を推進することが求められます。

市長は宣言どおりの街づくりを

以上のことから、秋元札幌市長は、ただちに白旗山の皆伐事業を中止し、「ゼロカーボンシティ」で宣言した街づくりの着手を求めます。

どうしても理解できない

持続可能な森林管理を進めてきた白旗山をなぜ壊す

札幌市が制定した白旗山都市環境林基本計画（1984年10月）では、森林の皆伐を認めていません。基本計画の施業方法では、「林地内に皆伐による裸地を生じせしめないように恒続的な森林の更新をはかる。」と明記しています。これだけ丁寧な表現で基本計画を表しているのは、森林が健康で持続可能な形で管理されるためには、適切な森林管理の実施が不可欠だからです。持続可能な管理は、伐採と再生のサイクルを調整し、森林の生態系を保護しながら炭素吸収を促進することを目的にしなければなりません。

具体的には間伐の実施です。完全な皆伐を避け、間伐によって健全な森林の成長を促す方法が取られることです。過密になった森林の樹木を適切に間引くことで、残る木々が成長しやすくなり、森林の健康を保ちつつ二酸化炭素の吸収力を高めることができます。このほか、生物多様性の確保で地元の生態系全体が健全に保全されることになります。森林は大切に。